

第2回 浜黒崎小学校のあり方協議会 議事概要

開催日：令和5年9月26日（木）

開催時間：19時～20時50分

開催場所：浜黒崎地区センター

講師：水橋地区学校統合推進委員会 委員長 高柳 賢司 氏

出席者：渡辺会長、谷井副会長、仲田副会長、姉崎委員、飯山委員、大田委員、
宝田(実)委員、長谷川委員、堀井委員、武田委員、松井委員、佐藤委員

事務局：教育委員会事務局理事 古西 達也
学校再編推進課長 山口 雅之
学校再編推進課計画係主査 村石 篤彦
学校再編推進課計画係主事 福島 久美子

《開会》

【司会】 第2回浜黒崎小学校のあり方協議会を開催する。

本日は、都合により3名が欠席している。

（会長 挨拶）

【会長】 本日は水橋地域における学校統合に実際に関わってこられた水橋地区学校統合推進委員会の高柳委員長に御講演をいただく。

プロフィールなどのご紹介を事務局よりお願いしたい。

《学校統合事例：講演》

【司会】 （高柳委員長 紹介）

本日は、水橋地区における学校統合に関しての協議過程や懸案事項への対処方法などについて御講演をいただく。

高柳様、よろしく申し上げます。

【講師】 （学校統合事例 講演）

以上となる。

皆様との意見交換が終わった後に、「未来に託そう」というところで最後にお話ししたいこともあるが、まずはご質問にお答えする。

《学校統合事例：意見交換》

【委員】 水橋地区では、特に各地区の自治振興会長の皆さんが、子どもたちが減っていていることや、特定の小学校では入学者が0名であったことに危機感を覚え、統合に向けて動き出したと伺っているが、地域の中で意見をまとめていく際に最も苦勞されたことはなにか。

【講師】 地域の中では、小学校がなくなることはあり得ないということで、最初は聞く耳をもたなかった方がおられたことが苦勞と言えれば苦勞である。地域としては、学校がなくなると地域が廃れるという思いが強いということはあるが、昔は1学年4クラスあった学校が1クラスになっていたり、複式学級となる見込みのある学校が出てきたりという状況があり、愕然とした。ただ、やはり入学者が0名で入学式がないということが信じられないという気持ちであった。

もっと早く危機感を覚え、地域全体へ訴えかけていくことが必要だったのではないかということが反省点でもあり、苦勞したところでもある。例えば、保護者や学校の先生方がどう感じているかという情報を見聞きしておけば、地域での話の進め方も変わったのではないかと思っている。

【委員】 水橋地区の統合にあたり、どのように保護者やその先の世代の意見を聞いたのか。また、反省点もあれば教えていただきたい。

【講師】 保護者世代・1つ前の世代・将来の世代を含めて、市教育委員会事務局からの提案もあり、ワークショップを3回ほど開催した。

そこでは色々な世代の方がいたわけなので、様々な意見が出てそれをまとめるというところは苦勞をしたところである。

ワークショップは記録に残るということをお伝えし、発言をしやすい雰囲気をつくり、丁寧に進めたおかげもあってか、最後はまとまったと実感している。

議題としては、メリット・デメリットを含めて何でも意見として話してもらえるようにした。

反省点としては、学校周辺の通学路の課題だけでもかなり多くの数があり、最初にどの問題にどんな課題があるのかというところが整理できていればよかったということ、後は時間がたつと解決策の選択肢がなくなってくるということもあるので、もう少し優先順位をしっかりとつけて話をするのができていたらよかったと感じている。

- 【委員】 地域では、賛成や反対、どちらでもないなど、様々な意見があったと思われるが、どのようにメリットやデメリットを説明しながら意見をまとめていったのか。
- 【講師】 メリットやデメリットは必ずあるので、特にデメリットをどう乗り換えていくかをよく議論することである。
完璧には解決できなくても、議論をすることで、7割方で合意形成を行うということも必要になってくる。
自分とは違う意見を言った方の立場になってお互いに理解しながら議論するというのは、このような難しい問題の時には効果的であると思う。
- 【委員】 浜黒崎地区では、小学校の統合の可否について検討を始めたばかりである。今後、この協議会としてどのようなことを検討していけばよいのか、水橋地区の学校統合決定の経験からアドバイスをいただきたい。
- 【講師】 市教育委員会が事務局として協議の材料を出してくれるので、これを題材として自分たちなりに理解を深めることが大事である。
ただし、繊細になり過ぎたり、一部の意見を尊重しすぎると前に進まないこともあるので、割り切って前に進むことも大事である。
- 【委員】 資料を見ると、2019年に市教育委員会を招いて説明を受けてから、議論を開始し、同年にPTAにアンケート、翌年初めには自治振興会にアンケート調査をして意見集約の後、意見交換を行ったとあるが、驚いたのが、2020年9月にはすでに要望書を提出されているというところである。
その過程で議論があったこととは思うが、地域としては議論を成熟していかないとなかなか納得されないのではないかと思っている。
合意形成がアンケート調査のみでなされたとは思えないので、他にどのようなことが合意形成に必要なだったのかを教えてください。
- 【講師】 アンケートにおいてまずは通学路の問題が出てくるなど、アンケート結果をもとに議論をする内容を拾って一つずつ議論していった。
子どもたちのことを第一義とし、これから社会に出ていく事を考えると、いろんな人との関わりを持つためにはある程度の規模の人数が必要であるという考えを伝えて話をしていった。

- 【会長】 浜黒崎地区においてもアンケートは取った。
「賛成」「反対」「どちらでもない」と三者択一で選んでもらい、意見のある人は下の自由記載欄に書いてもらった。設問は大ざっぱだったが、様々なご意見がある中で、やはり通学路の問題が一番大きく出てきた。特に「反対」の方の中には通学路の確保・整備がしっかりなされないのであれば「反対」という意見が多かった。ただ、その内容を地域に渡してオープンにしても、その後意見は出てこなかった。
水橋地区ではどういうアンケートの取り方をされたのか伺いたい。
- 【講師】 中身の詳細までは覚えていないが、設問を細かく分けて、これについてどう思うかということ的自由記載いただく形式としていたと記憶している。いずれにしろ地域でどんな意見があるのか吸い上げる場は必要であると考えている。
それを見て、緊急性のあるものと安全対策が必要なものを合わせて、優先度を決めていく必要があると思う。
- 【委員】 協議会だよりという形で地域住民に配ったりもしており、意見も求めているが、意見は集まらない。地域の方々がどう思っているのか分からないということが難しいと感じている。
- 【講師】 一人でも二人でも反対の方が分かれば、対面で腹を割って話していくこともできる。
- 【会長】 現状、浜黒崎地区はすごく静かな状況にある。
絶対反対という方などは何かしらアクションがあるのかと思っていたが、それもない。とりあえずは、引き続き自由な意見を求めていきたいと思っている。
- 【委員】 住民説明会みたいなものを1回開催して、あり方協議会の方向性としては、こう考えているということを宣言して、そこで意見をもらうというのも有りかもしれない。
意見がないまま決めていくというのは不安がある。
- 【委員】 アンケートを取りました、何々もしました、という形で段階を踏んでいけば、私たちとすればお知らせをして、意見を求めましたということも後々言えるのではないかと思う。

【講師】 やはり実態を把握するという事は大事であると考えている。
後々、こういった不満があったんだということにならないためにも、早
めに地域の方々の考えを吸い上げる場は必ず必要である。

【会長】 他、何かお聞きしたいことはあるか。

(質問なし)

【講師】 最後に、「未来に託そう」というところですが、『人間万事塞翁が馬』で
ある。運命はどう転ぶかは分からず、心配は尽きることはないが、これ
からの子どもたちのために何が必要か地域との共生はどうあるべきかを
第一義として、いかに真剣に考えているかということが地域の方々に伝
わっていけば、上手くいくと信じている。

【会長】 高柳委員長、本当に貴重なお話をいただき、ありがとうございました。

(講師退出・会長お見送り)

《事務連絡：ご意見フォームの開設について》

【事務局】 会長がお戻りになるまでの間に1つ連絡事項をお伝えする。
前回の協議会において委員より提案をもらっていたホームページなどで
広く意見を募る方法について検討し、市のホームページ上に専用のペー
ジを作成し、近日中に公開することを考えている。

(浜黒崎小学校のあり方に関するご意見フォームについて説明)

【委員】 会長には伝えているということでよいか。

【事務局】 会長には伝えており、この時間を活用して皆様にお伝えすることとして
いた。

【委員】 協議会だよりなどで、専用ページへアクセスするためのQRコードを貼
っておけばよいのではないか。

【事務局】 承知した。今後の協議会だよりへ掲載させていただく。

《議題進行：学校見学会について》

【司会】 会長がお戻りになられたので、議事進行をお返しします。

【会長】 以前の協議会でお話ししていたが、学校を見学する機会を設けたいと思っている。

1つは近隣の大広田小学校としたいと考えているが、浜黒崎小学校は令和11年度に複式学級が見込まれるとのことなので、複式学級を見てみたいという話もあると思う。

そのため、2つの学校を見学することとしたいと考えている。

事務局から案を聞かせてもらいたい。

《事務局説明》

【学校再編推進課長】 (学校見学会(案)について説明)

《意見交換》

【会長】 個人的には令和11年度に複式学級が見込まれる学年は2学年と3学年なので、同じ状況である福沢小学校か池多小学校がよいと思っている。今の事務局からの説明を聞いてここを見たいなどの意見はあるか。福沢は大山町で、少し遠く感じる。池多はそんなに遠いイメージは感じないが。

【事務局】 浜黒崎小学校からの距離は、福沢小学校と池多小学校はほぼ同じ距離であり、1キロも違わないが、信号機などの兼ね合いもあり、福沢小学校の方が短い時間で到着できると思われる。

【委員】 2学年・3学年が複式になるのであれば、池多小学校で良いのではないか。

【委員】 福沢小学校と池多小学校だと規模として池多小学校の方が浜黒崎小学校に近いと思う。

【委員】 統合が決まっている檜尾小学校はどうか。実際に児童たちと会うことはできるか。統合が決まっているが、どのように感じているのか気になる。

【委員】 複式学級になるクラスは何名からなるのか。資料を見ると9名のクラスも複式学級になっているが、10名以下だと駄目という決まりなどがあるのか。

- 【学校再編推進課長】 1学年が含まれる場合は異なるが、2学年～6学年は基本的に15名以下となると複式学級となる。
それが、令和11年度に2学年と3学年で発生する見込みとなっている。
- 【会長】 先ほど檜尾小学校はどうかという意見があり、統合が決定したことに対して、子どもたちがどう思っているかを聞きたいということであったがその方がよいか。
- 【委員】 子どもたちが不安に感じているかなどを聞いてみたい。
- 【委員】 今はもうお互いの学校に行くなどの交流を行っている最中なのか。
- 【学校再編推進課長】 既に交流事業は始まっており、運動会を合同でしたり、統合先である八尾小学校の見学会なども保護者を含めて行っている。
子どもたちがどう思っているかということに関しては、やはり大きな学校に行くことに対する不安も当然あると伺っている。
しかし、交流事業を行っている中で、仲良くなった子どもたちはすでに下校後に遊んでいる子が出てきていると伺っている。
- 【会長】 檜尾小学校の話を書くという件については検討とさせてほしい。
- 【学校再編推進課長】 檜尾小学校の件については検討ということで承知した。
- 【会長】 あと、この機会に皆さんにお願いしたいのは各団体の会合などにおいては改めて、統合についての話をしていることや、今こういうことを検討しているということを各会合において話をしてもらいたい。
そこで、出てきた意見を吸い上げて、この団体ではこんな意見が出てきたということをこの協議会で話し合うということもしてはどうかと思っている。
- 【委員】 各団体で話をしてはすぐ意見が出てこないことも考えられる。
そのような人たちのために何か意見箱のようなものを設置しても良いのではないか。
- 【委員】 その場で話して意見をもらえるかは分からないので、楽に意見を言えるようなものが良いと思う。意見を言いやすくする方法はいろいろと探っていていいと思う。
- 【委員】 期限はあるか。
- 【会長】 期限はないが、それぞれの団体会合の日が違うと思うので、そういった場で話をしていただきたい。
- 【委員】 次の協議会までにと理解した。

- 【委員】 先ほどの高柳委員長の話にもあったように、早めに地域内の意見を吸い上げて、小さくても一歩ずつ進めていかなければいけない。
- 【委員】 地域の方たちからすると、統合する・しない場合にこれからどうなるのかということが分からないと思う。なので、単純に小学校がなくなるのは嫌というような感情での意見が出てくることも考えられる。
そういった意見でも良いということか。
- 【会長】 それでも良い。
協議会の委員はイメージを共有しているが、地域の方はイメージがないという状況である。今はそれで良いと考える。
地域から意見を聞き、協議会で色々と私たち委員も学びながら、協議会としての意見をもっていけばよいと思っている。
- 【委員】 アンケートを取るという形ではなく、小学校でこういう動きが出てきているということを伝える形で。
- 【会長】 まずはこの協議会があることを知ってもらい、意見を聞かせてもらいたいと言う。そこで色々な意見が出てくると思う。
それでは、委員の皆さんはそのような形で意識して聞いていただきたい。
- 【委員】 承知した。
- 【会長】 改めて、学校見学会は池多小学校と大広田小学校でよろしいか。
日程は後日調整させていただきたい。
授業を見学するため、平日となるが、可能か。
- 【委員】 時間帯にもよる。
- 【委員】 日程がはっきりしたら答えられる。
- 【会長】 学校側の都合もあるので、こちらから日程を指定するのは難しいかもしれない。
できるだけ多くの委員に参加していただきたい。
- 【委員】 先ほどご意見フォームのQRコードを協議会だよりにつけてもらえるとのことだったが、若い世代はやりやすいと思うが、年配の方はどうやって意見を出せばいいのか分からない人もいると思う。
他には、地区センターで意見を言えるような方法はないか。
- 【委員】 目安箱のようなものを置けばいい。
- 【委員】 そういった幅広い世代の意見を集約できるように配慮いただきたい。
- 【会長】 地区センターや事務局の方でお願いできないか。

【学校再編推進課長】 承知した。地区センターと相談させていただく。

《閉会》

【学校再編推進課長】 それでは、次回（第3回）のあり方協議会は、今ほど会長と委員の皆さんで決定された各団体からの報告が間に合うものは、その報告を兼ねて、10月10日（火）19時から浜黒崎地区センターにて開催する。

【会長】 承知した。

委員の皆さんには申し訳ないが、本日の高柳委員長の話聞いて、考え方や意見が変わってくることもあろうかと思う。

短い期間だが、地域から意見を聞いてきた場合は発表いただく機会を設けることとする。

事務局に聞きたいが、学校見学会の日程については、次回の協議会で連絡してもらえるか。

【学校再編推進課長】 委員の皆様のご都合もあるので、決定次第早めにお知らせする。

【会長】 承知した。

以上をもって、第2回浜黒崎小学校のあり方協議会を終了する。

—— 了 ——